

日本の選択：核戦争を呼び込む大軍拡・「核の傘」か 核兵器禁止条約参加か

参議院議員 井上哲士

●分断ではなく、国際法と国連憲章に基づく国際平和こそ

ガザ・イスラエル紛争——双方に国際法違反の行為の中止を求める国際的働きかけこそ
「イスラエルと共にある」米国の対応／役割を果たさぬ日本政府

●一層危険が明らかになる岸田内閣の日米統合強化のもとでの敵基地攻撃能力保有と大軍拡

○「統合防空ミサイル防衛能力」(IAMD)への参加——日米統合が目的

- 安保三文書、1月の日米共同宣言、「2+2」共同発表
- 米国 IAMD：先制攻撃宣言/同盟国との「シームレスな融合」
- 岸田：「別物であり、自衛隊は独立の指揮系統で動く」
- 防衛省文書：「日米共同対処」は際限なき攻撃のサイクル

○「核抑止」を改めて強調——5月G7広島サミット、8月日米韓首脳会談

●敵基地攻撃、日米統合加速の来年度予算概算要求——IAMD 本格強化に 1兆 2420 億円

○重点ポイント：各種スタンドオフミサイルの整備/イージス・システム搭載艦の整備
全国駐在地・基地等の施設の強靱化/常設統合司令部の創設

○常設統合司令部の創設

- 「陸海空自衛隊の一元的な指揮」「平素から有事まであらゆる段階においてシームレスに領域横断作戦を実現できる体制を構築」
- 「米インド太平洋軍司令部と調整する機能が不足」という「課題を解決」と明記

○「抑止力」口実にあらゆる分野で加速する軍拡。戦争呼び込み日本を危険に

- トマホーク取得、スタンドオフミサイル整備の前倒し。武器輸出の拡大。日米共同訓練。
南西諸島の軍事化

●軍事的「抑止力」乗り越え、核兵器禁止条約、大軍拡・大增税反対の運動を

○広島、長崎の平和記念式典、G20 首脳会議、ASEAN 首脳会議

○「戦う覚悟」ではなく、絶対に戦争にしない「平和外交の覚悟」と核廃絶への覚悟を